

花巻市 博物館だより

HANAMAKI
CITY MUSEUM



No. 79

2026.8



花巻市博物館IP



Facebook



Instagram

目次

▶ P 1 特別展「大正イマジュリィの世界」 ▶ P 2～3 テーマ展「つくり、つたえる 花巻の工芸」

▶ P 4～5 特別展「大正イマジュリィの世界」 ▶ P 6 活動レポート「楽しく活動！GW体験講座」

▶ P 7 館長コラム・インフォメーション ▶ P 8 花博コレクション

特別展 大正イマジュリィの世界



竹久夢二《涼しき装ひ》『三越』第15巻第6号（1925年、株式会社三越呉服店）

多彩な大衆文化が隆盛した大正から昭和初期にかけて、日本では印刷技術の革新を背景に出版文化が発展しました。藤島武二^{ふじしまたけじ}、橋口五葉^{はしぐちごよう}、竹久夢二^{たけひさゆめじ}ら当時新しい表現方法を模索していた画家たちも、同時代の美術界の動向と並行しながら、独自の表現を生み出し、人々の心をとらえました。やがて杉浦非水^{すぎうらひすい}をはじめとするグラフィックデザイナーが誕生し、モダンデザインに大きな影響を及ぼしました。

本展では、この頃に登場した書籍の装幀や挿画、ポスター、絵はがきなど大衆的な複製図像を、イメージ図像を意味するフランス語「イマジュリィ (imagerie)」と総称して紹介します。

当時の人々を魅了し、日常に美を添えてきたイマジュリィは、現代のデザインやイラストレーションの原点といえます。モダンでユニーク、おしゃれでかわいい、魅力的な大正イマジュリィの世界をお楽しみください。

令和8年度花巻市博物館テーマ展

つくり、つたえる 花巻の工芸

開催中～令和8年8月30日(日)

私たちの暮らしに寄り添う生活雑貨や伝統工芸品は、その土地の人と自然の営みが築き上げてきた風土によって生まれた、奇跡のような結晶です。日本各地にはその土地に古くから根付いた様々な工芸がありますが、花巻においても伝統と技を守り伝えながらつくり続けられてきた工芸があります。

本展では、花巻という風土の中でつくり、伝えられてきた台焼、鍛冶町焼、成島和紙、花巻傘、ホームспан、南部系こけしを中心に、作品や製作道具、歴史を紐解く資料などを交えて紹介します。

台焼 日々、つくり続ける

古くからの湯治場として知られる台温泉。その近くにそびえる万寿山を含む一帯は、やきものに適した良質な陶土や陶石の産地でもあります。台焼初代杉村勘兵衛は、明治20年代頃まで台温泉の入り口で操業していた湯ノ沢焼（小瀬川焼）の窯場跡を利用し、台焼の窯を開きました。それから今日まで、いくつもの苦難を乗り越えながら、日



台焼 染付羊歯文蓋付菓子器 銘 無垢
台焼五代 杉村峰秀 作

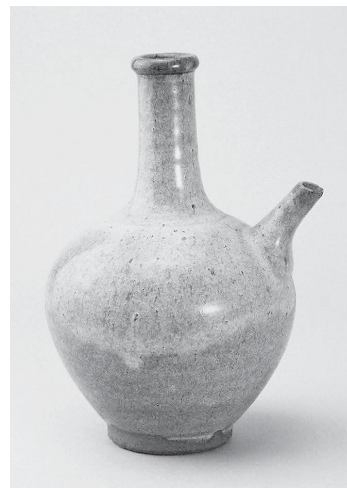
常に寄り添うやきものとして発展し、現在では岩手県で唯一、東北でも珍しい磁器をつくる窯として、五代杉村峰秀氏がその技と伝統を受け継いでいます。

鍛冶町焼 引き継がれるわざ

やわらかな灰色や茶褐色の釉薬が美しい鍛冶町焼は、文化元年（1804）頃、古館伊織によって、現在の花巻市藤沢町にあった通称「瀬戸山」に開かれた陶器窯です。皿、碗、甕、徳利などの日用

品や瓦を生産し、盛岡藩に製品を納める御用窯として操業していました。また、東北三大土人形の一つとして知られる花巻人形の発祥に深く関わり、その発展に貢献しました。昭和18年（1943）、戦争の影響で窯が閉じられましたが、戦後、鍛冶町焼の「町」の字

を「丁」に改め、鍛冶丁焼初代阿部勝義によって再興されました。また、花巻人形は昭和34年（1959）に最後の制作者であった照井家が廃業し、一時途絶えましたが、昭和49年（1974）に平賀工芸社が「花巻土人形」として再興しました。鍛冶町焼のわざは新たな職人たちへと引き継がれ、花巻の名産品として親しまれています。



鍛冶町焼 青釉口付徳利

成島和紙 伝統を支えるわざ

江戸時代以前から和紙の生産が行われていた成島和紙。最盛期には多数の農家が副業として和紙生産を行い、盛岡藩の御用紙や障子紙、提灯などの紙として、また、三熊野神社や毘沙門堂における写経用紙や御札紙としても重用されました。19世紀以降は花巻城下の下級武士の間で内職として盛んになった花巻傘の材料紙にも多用されたとい



成島和紙 紙漉きの様子

われています。明治期以降、洋紙に押されて和紙の需要が激減し、多くの生産農家が廃業しましたが、現在は青木一則^{あおき かずのり}氏が唯一の製作技術保持者として受け継ぎ、今に伝えています。成島和紙は平成29年（2017）、花巻市指定無形文化財に指定されました。

花巻傘 わざをつなぐ心意気

江戸時代後期、花巻に伝えられた和傘づくりは、近代の花巻を代表する名産品の一つへと成長しました。その特徴は「堅牢持久」、少しくらいの強風や豪雨でも破れないため、雨の強い沿岸地域や雪の多い豪雪地域で多くの需要がありました。しかし、簡便な洋傘の普及によって需要が落ち込み、多くの製造業者が廃業しましたが、伝統的な和傘づくりは現在、唯一の製作技術保持者である滝田



花巻傘

工芸の滝田信^{たきた のぶ}夫氏の手によって守られています。平成26年（2014）、花巻傘は花巻市指定無形文化財に指定されました。

ホームスパン 伝統と革新のわざ

羊毛を「家（home）で紡いだ（Spun）」という意味をもつホームスパンは、スコットランドやアイルランドが発祥といわれる手紡ぎ・手織りの毛織物です。花巻市東和町では大正期頃から女性の仕事としてホームスパンの技術が根付いていました。大正期から昭和期にかけて羊毛の植物染め技術^{おいかぜんぞう}を確立し、ホームスパンの「用の美」を追求した及川全三。戦後、復員した人々が起した会社



ホームスパン マフラー 及川全三 作

を起源とし、世界的ファッションブランドに唯一無二の生地を提供する企業へと成長した株式会社日本ホームスパン。東和の地にホームスパ

ンの技術が絶えることなく続いているのは、各時代において伝統に革新をもたらした人や企業の存在が大きいといえます。

南部系こけし 美しいわざの結晶

こけしは東北地方で生まれた郷土玩具で、木地師^{きじ}（工人）がろくろで挽いてつくる「頭と胴」のみの人形です。

戦後、こけし技術を模倣しつつ、より自由な形・描彩のこけしが登場し、それらは「新型こけし・創作こけし」などと呼ばれました。それと区別するかたちで、従来から東北地方で作られてきたものを「伝統こけし」と呼ぶようになります。

伝統こけしのひとつに分類される「南部系こけし」は、盛岡や花巻を中心に作られました。「キナキナ」と呼ばれる赤ん坊の「おしゃぶり」が起源とされ、無彩色仕上げ・動きやすい頭・握りやすい形などが特徴です。



南部系こけし

花巻でつくられてきた工芸に携わるつくり手の技術や知恵、そしてものづくりに込められた想いに触れ、花巻という地域についても、工芸を通して知る機会となりましたら幸いです。

（学芸員 高橋 静歩）

◆関連イベント

◆ワークショップ 「成島和紙で うちわづくり」



講師：赤津有美氏
（和しごとラボトリー百花）
日時：令和8年8月8日（土）
13時30分～15時
場所：花巻市博物館
講座・体験学習室
参加費：1,000円
定員：先着20名（要申込）
申込期間：令和8年7月8日（水）
～8月7日（金）



うちわづくり

令和8年度花巻市博物館特別展

大正イマジュリィの世界

令和8年9月12日(土)→11月23日(月祝)

《第1部 大正イマジュリィの芸術家たち》

大正期の美術界に大きな影響を与えたことで知られる雑誌『白樺』は、明治43年(1910)に創刊され、その後全160冊が刊行された文芸誌ですが、美術雑誌としての要素も強く持ち、創刊以来、西洋美術の紹介と啓蒙に心血を注ぎました。

明治期から大正期に移り変わる1910年代、若者たちには父の世代(明治の表象)への強い反発があり、芸術的混乱はそれを受けてすさまじいエネルギーとなって新たな「表現」を模索します。『白樺』はまさにその象徴だったのです。

ここに取り上げられた作家たちは、そうした芸術的混乱の時代に、新しい「表現」を模索した芸術家だといえます。

すぎうら ひ すい
杉浦非水 [1876-1965]

「日本の流行は東京に始まり、東京の流行は三越に始まる」

三越百貨店の通信販売のキャッチフレーズです。



杉浦非水《初夏》
『三越』第22巻第5号(部分)
昭和7(1932)年/株式会社三越

同店が発行する雑誌、『三越』『みつこしタイムス』など通販カタログや広報誌といった、広く行き渡る印刷物でのイメージ戦略を重視した三越百貨店の一翼を担っていたのが、日本で最初のグラフィックデザイナーとして知ら

れる杉浦非水です。

大正前期にはウィーン・ゼツェッション(分離派)様式、大正末期にはアール・デコ様式とスタイルを変えながら、デザイン界を牽引し続けた日本の商業デザインの先駆者です。

たけひさゆめ じ
竹久夢二 [1884-1934]

49年の短い生涯ながら、それぞれの時代に即した創作活動を展開し、近代日本のグラフィズムにおいても、また、一般の人々の認知という点でも、最も名の知れた多芸多才の作家、今でいうところのマルチ・クリエイターです。

初期のコマ絵の時代から、江戸復古を受けての抒情的古典画へ、そして子ども絵、女性画など「夢二好み」という特色をみせながら積極的に展開させた表現は、他の大正イマジュリィの作家たちの指標にもなったといえます。



竹久夢二『唯我心悩ぞ知らめ』(セノオ楽譜二七番) 6版
大正13(1924)年/大正5(1916)年初版/セノオ音楽出版社

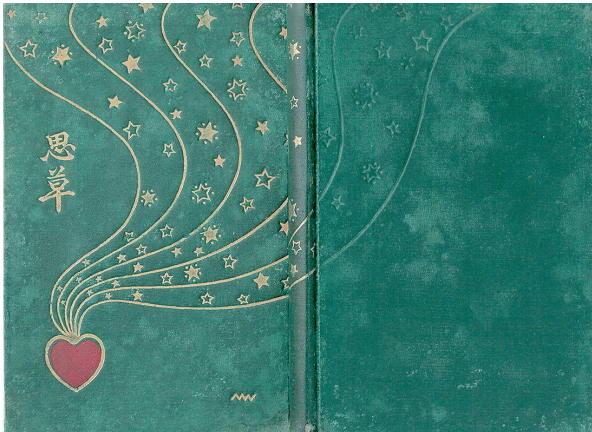
《第2部 さまざまな意匠

フランスの哲学者、アンリ・ベルクソンが提唱した「エラン・ヴィタル (élan vital)」の考えは、大正イマジユリイのあらゆる表現の出発点となったといえます。エラン・ヴィタルは「生の跳躍」「生の飛翔」と様々に訳されますが、大正期での用いられ方は、生きることに関わる何かしらの衝動というものでした。

本章で紹介する様々な意匠は、多かれ少なかれ生の衝動から導かれているといえるでしょう。はつらつたる性欲から淫靡でデカダンな性格まで、「生」は様々に形を変えて発表されたのでした。

エラン・ヴィタルのイマジユリイ

「エラン・ヴィタル」の感覚こそ、大正という時代を通じて現れ続けた若者たちの共通感覚といえます。この感覚は、若者たちの「生」の飛躍を模索させると同時に、大正期ならではの「ビオ・イマジユリイ」を作り上げることとなりました。その多くは、植物の生成イマジユリイとなり、またゴッホ的な太陽信仰を生み、静謐な宗教的なイマジユリイ、あるいは単純化されたプリミティブ・デザインをも生み出します。



長原孝太郎 (装幀) 佐々木信綱『おもひ草』
明治38(1905)年/明治36(1903)年初版/博文館

子ども・乙女のイマジユリイ

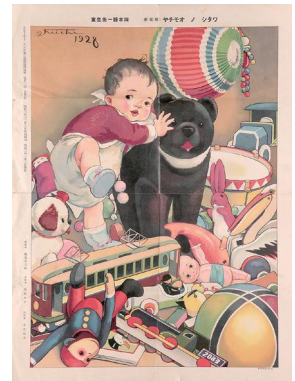
大正期になると、それまでの子ども観が失われ、ある時期までは子どもが子どものままでいるという新しい価値観が生まれました。

それには皇孫の誕生と、それに連動して行われた子ども博覧会の影響があったとされます。

自由な創造性を育む教養雑誌も創刊され、芸術としての童謡・童話・童画の世界が広まりました。



武井武雄 (挿画、詩)
『子供之友』か
大正13(1924)年か



岡本帰一 (挿画)
『ワタシノオモチヤ』
『コドモノクニ』7巻1号
昭和3(1928)年/東京社

(学芸員 松橋香澄)

◆関連イベント

◆ワークショップ

「大正イマジユリイなブックカバーづくり」

開催日：令和8年9月19日(土)
定員：先着15名(要申込)
参加費：500円



ブックカバー
づくり

◆記念講演会

「大正イマジユリイの魅力」

講師：永山多貴子氏
(郡山市立美術館 館長)

開催日：令和8年9月27日(日)
定員：先着30名(要申込、聴講無料)



記念講演会

◆ワークショップ

「成島和紙の飾り紙箱づくり」

講師：赤津有美氏
(和しごとラボラトリー 百花)

開催日：令和8年11月7日(土)
定員：先着20名(要申込)
参加費：1,000円



飾り紙箱づくり

※いずれも時間は13時30分～15時、会場は花巻市博物館講座・体験学習室。

※各参加申込は、博物館ホームページの専用申込みフォームまたはお電話にてお申込みください。

※各参加申込期間は、開催日1か月前～前日まで。

活動レポート

ゴールデンウィーク

楽しく活動！GW体験講座

花巻市博物館では、5月3日(日)から5月5日(火)の3日間、3種類のワークショップ体験活動を行いました。その様子をご紹介します。

① 勾玉づくり体験

日 時：5月3日(日) 13:30～15:00

参加者：17名

始めに「勾玉とは何か」の説明を聞いてから、常設展示室で勾玉の実物を見学。古代人の感覚に触れてもらいました。

勾玉作りの作業は、作りたい形の型紙で

石に形を描き、丸みをもたせながら丁寧に削っていきます。大人も子どもも、最後まで集中して頑張り、世界に一つだけの自分の勾玉を楽しく作りました。



勾玉の実物を見学



削る作業

② 琥珀玉づくり体験

日 時：5月4日(月) 13:30～15:00

参加者：17名

琥珀は、勾玉の石より硬くて削るのに時間がかかります。「琥珀とは何か」の説明を聞いたら、早速琥珀玉づくり作業を開始しました。

自分が作りたい形を自由に下書き

した後は、ひたすら削るだけです。

紙やすりを使って少しずつ形が出来上がって



琥珀を削って形を作る

くほどに楽しさが増してきて、完成して紐をつけたときには笑顔になっていました。



「琥珀」の説明

③ 縄文弓矢・火起こし体験

日 時：5月5日(火) 13:30～15:00

参加者：36名

弓矢と火起こしの2つのグループに分け、交代しながら実施しました。始めに展示室で弓矢の歴史などの話を聞いてから外に出て、それぞれの体験を開始しました。



縄文弓矢の展示解説

縄文弓矢体験では、構え方や弦の引き方を確認した後、短い距離から始まって、徐々に的までの



的をねらって弓を引く

距離をのばしていきましました。矢をまっすぐ射るのは高度な技術が必要ですが、小さいお子さんも最後まで集中して頑張っていました。全員がルールをしっかりと守って体験していました。

火起こし体験は、「まいきり」という火を起こすための道具を動かして種火を作り、それを燃えやすい材料につけて火を起こすまでの体験です。



火起こし中

「まいきり」の扱いは大人でも難しいので、簡単には火をつけられないと最初に伝えました。それでも全員が、途中であきらめることもなく、最後まで挑戦し続けました。



火がついた！

どちらの活動も参加者の安全意識が高く、安全に、楽しく行うことができました。

館長
コラム早池峰神楽
国指定50周年

花巻市大迫町に伝わる早池峰神楽は、今年、国の重要無形民俗文化財指定50周年を迎えた。早池峰神楽は、岳神楽と大償神楽の二つの神楽座の総称で、早池峰山を修験道場とした山伏たちによって受け継がれてきたとされる。

両神楽の起源は定かではない。しかし、両神楽に残された獅子頭や神楽伝授書などから、少なくとも400～500年前には存在していたことがわかる。また、「能」が大成する以前の古い民間芸能の要素が残る貴重な神楽として、1976年に国指定となり、さらに2009年にはユネスコ無形文化遺産にも登録された。

こうしてみると、両神楽は順調に受け継がれてきたように思える。しかし、その歴史の中で少なくとも明治以降は、三度にわたる大きな伝承の危機があった。一度目は明治政府による神仏分離令である。修験道の衰退に伴い、岳地区にあった岳妙泉寺が廃寺となった。二度目は明治以降に続

いた戦争で、神楽衆も招集されて舞手不足に陥った。三度目は高度経済成長期の若者の都市流出である。それでも、神楽が今日まで受け継がれてきたのは、神楽衆の並々ならぬ努力によるものだけではない。地域の人びとが、霊山からやってくる神楽に霊験や御利益を見だし、神楽もまたその期待に応え続けてきた。そうした長年にわたる信頼関係が、伝承を支える大きな力になったのではないだろうか。

近年、両神楽は新たな節目を迎えている。現在、神楽衆の若手の多くが大迫町外に居住しているのである。これを四度目の危機と呼ぶべきかどうかはわからない。しかし、変化の中で伝統を受け継ぐという点では、これまでの危機と同様の課題を抱えているともいえる。思い出されるのは、1982年公開のドキュメンタリー映画「早池峰の賦」の中で、当時の岳神楽保存会長が語った「俺の代で（神楽が）なくなっただけは言われたくない」という言葉である。その思いは、今の神楽衆にも受け継がれているに違いない。私はそうした人々の強い意志と伝統の力が支えとなり、これからも時代や暮らしの変化を乗り越えながら、新たな継承の形が築かれて行くものと信じている。

令和8年8月～11月の行事予定

【講座】

◆学芸員講座－2

「花巻の工芸－現代へ続くわざをたずねて－」

日 時：8月23日(日) 10:00～11:30

定 員：先着20名 ※要申込

申込期間：7月23日(木)～8月22日(土)



学芸員講座－2

◆館長講座－2 【バスツアー企画】

「－合併20周年－」

まだまだ知らない花巻の文化財を歩く」

日 時：10月15日(木) 9:30～16:00

定 員：先着20名 ※要申込

申込期間：9月15日(火)～9月30日(水)



館長講座－2

※費用や内容についてはHPでお知らせします。

【ワークショップ】

◆鍛冶丁焼つくり

日 時：10月25日(日) 13:30～15:00

定 員：先着15名 ※要申込

材 料 費：1,500円

申込期間：9月25日(金)～10月24日(土)



鍛冶丁焼つくり

※ワークショップ、講座ともに参加申込みは、申込み期間中にオンラインまたはお電話にてお申込みください。なお、受付は定員に達し次第終了いたします。

※各ワークショップ・講座の会場はいずれも花巻市博物館講座・体験学習室です。

【市史編さん室からのお願い】 花巻に関する古い資料はありませんか？

●探している資料

和紙に墨で書かれた古い文書や図面／商店街のチラシやポスター／そのほか本市の歴史が分かる資料

●連絡方法

オンラインまたはお電話にてご連絡ください。

※ご連絡を受けた後、資料保管場所へ職員が伺い、撮影をさせていただきます。必要に応じて資料をお借りする場合もございます。



情報提供

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松第26地割 8 番地 1

電 話：0198-32-1030 FAX：0198-32-1050

開館時間：午前9時から午後4時30分まで

休 館 日：月曜日(祝日・振替休日の場合その翌日)

12月28日から1月3日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※() 内は20名以上の団体割引料金です。

※割安な近隣4館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

交通案内

◆バス

新花巻駅→賢治記念館口

〈コミュニティバス 土沢線〉

シーナシーナ花巻前行…約5分

花巻駅→賢治記念館口

〈コミュニティバス 土沢線〉

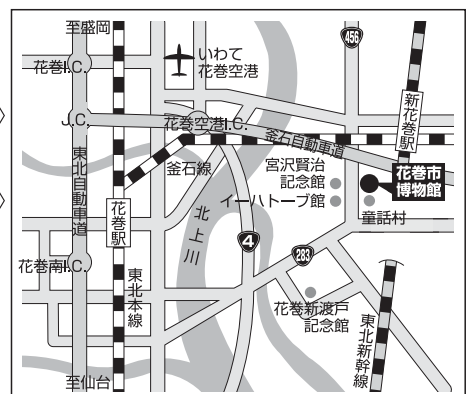
道の駅とうわ行…約20分

◆車

花巻空港 I C より…約10分

◆徒歩

新花巻駅より…約25分



URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1019887/1008981/index.html>

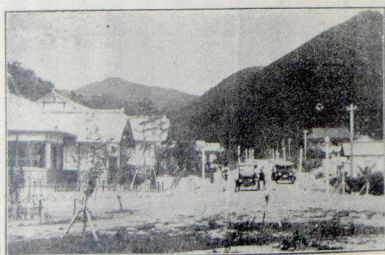
【休館のお知らせ】資料整理のため、11月24日から12月4日までの11日間休館します。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど何卒よろしくお願いいたします。

HANAHAKU

花博コレクション

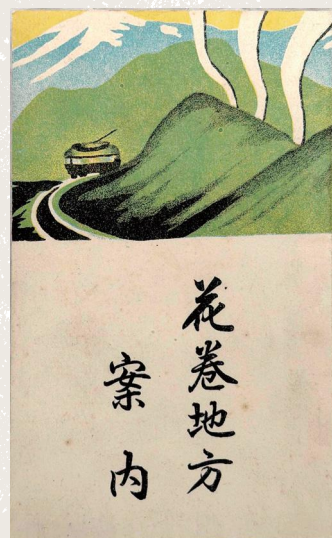
COLLECTION

●●●●●
花巻温泉
種貫郡湯本村大字臺に在り盛岡電気工業株式
會社の經營にかゝり然かも去る大正十二年八
月の開業に屬す萬壽山羽山堂ヶ澤山小櫻山の
翠巒に抱擁せられ臺川の清流に臨み山紫水明
の仙境にして交通至便文化的諸設備あり且つ
經濟的保養地たる點に於て他の追従を許さず
一遊園地 面積約八萬坪山麓を川流れ瀧落つ
然して運動場「テニスコート」大弓場大講
演場動物園等を設け且つ各種の運動器具の
設備あり



(花巻温泉)

●●●●●
臺川の流域
景観絶勝又史蹟に富む
種貫郡湯口村大字豊澤に在り高さ二十五丈幅參間落水二條
中山峠より林空を隔てし之を遠望するときは恰も白蛇の上
につきて之を眺むるときは巖頭全く見えずして單に落水の
空濤の名より生ず
一花巻温泉 (花巻驛より二里十町電車工事中)
一釜淵の瀧 (自動車の便あり)
一芋焼ケ瀧
一臺温泉 (花巻驛より二里二十五町
自動車の便あり)
一八坂神社 (花巻驛より三里
自動車の便あり)



特許箱式 製造元 種穀菓子種 醤油味噌 岩手縣花巻市 株式会社 箱崎庄吉商店 支店 花巻市 支店 花巻市 支店 花巻市		生洋食 井澤屋 岩手縣花巻市 電話 六三番	
米穀商 肥後商 大津屋呉服店 岩手縣花巻市 電話 四〇番		時計貴金属 南部鐵器 荻野時計店 岩手縣花巻市 電話 三三七番	

「花巻地方案内」

大正14年(1925) 16.6×10.3cm

「花巻地方案内」は大正14年5月1日に稗貫保勝会が発行した小冊子です。発行者である稗貫保勝会は、花巻周辺地域の名勝旧跡や天然記念物の調査ならびに温泉や地方物産の紹介を行うことによって地方振興の一端とすることを企画し、大正13年(1924)4月5日に稗貫郡内の有志で組織されました。

この冊子には、稗貫保勝会の設立趣旨のとおり、花巻周辺の三町十二ヶ村の人口統計や花巻城址、温泉、早池峰山をはじめとした名勝旧跡、観音札所、諸官庁、学校、会社、花巻人形や台焼、鍛冶町焼、花巻傘、清酒等といった物産が紹介されています。また、巻末には花巻地方を拠点とする会社や有名店の広告が数ページに亘って掲載されているなど、花巻地方の情報を網羅した内容となっており、まさに「花巻地方案内」の名にふさわしい資料です。

なお、名勝・旧跡の調査と執筆・編集は、元小学校教師で湯本村長も務めた郷土史家 杉村松之助(1874-1948)が担当しています。

(学芸員 小田島智恵)